

## 安全で安心、信頼していただける鉄道の構築

「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」の  
着実な遂行

## 「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」の着実な遂行

2018年度からスタートした「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」は、福知山線列車事故のような事故を二度と発生させないとの決意のもと、原点に立ち返って安全を追求していくための計画として策定しました。

「安全最優先の意識の浸透」を土台とし、「組織の安全管理の充実」と「一人ひとりの安全考動の実践」を通じて、5年間で「安全を維持する鉄道システムの充実」を図り、「全員参加型の安全管理」を実現し、重大な事故・労働災害の未然防止を目指します。

## ●「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」の目標と進捗

	到達目標	2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績
2022年度までの5年間を通じた目標	お客様が死傷する列車事故	ゼロ	0件	0件
	死亡に至る鉄道労災	ゼロ	0件	0件
2022年度の到達目標「安全考動計画2017」目標値から、さらに1割減※1	お客様が死傷する鉄道人身障害事故※2	さらに1割減	9件	11件
	踏切障害事故	さらに1割減	22件	24件
	部内原因による輸送障害	さらに1割減	126件	170件

※1「安全考動計画2017」の目標に到達した項目は、その数値からさらに1割減 ※2「安全考動計画2017」での「ホームにおける鉄道人身障害事故」から範囲拡大

## JR西日本グループ鉄道安全考動計画 2022

## 全員参加型の安全管理

## 一人ひとりがリスクを具体的に考える

お客様や仲間の安全を確保するために、一人ひとりがいったん立ち止まって「リスクを具体的に考える」ことからスタートし、何よりも安全を優先する判断や行動につなげます。

## 安全を維持する鉄道システムの充実

ハード

- 現在の設備の機能を維持・向上するためのメンテナンス投資
- 高い安全レベルを実現させるための投資や技術開発
- 機械化による作業の解消とシステムチェンジに向けた投資

ソフト

- 主体的なルール遵守と技術・技能の向上
- 効果的なヒューマンエラー低減策の実行
- 安全最優先の柔軟な対応力の向上

組織の安全管理の充実  
(安全マネジメント)

- リスクアセスメントの質の向上
- 安全マネジメントシステムの充実
- 現実的なルールを策定・維持するための仕組みの構築

## 一人ひとりの安全考動の実践

- 報告しやすい環境作り
- 自己対策、自己管理の実践
- 仲間と実行できる対策の検討・実施

- 福知山線列車事故を心に刻み取り組みと安全にかかわる方針の理解と実践
- 安全に対する感度の向上と安全最優先の判断と行動

## 安全最優先の意識の浸透

## 特に関係するゴール

- 8. 働きがいも経済成長も
- 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10. 人や国の不平等をなくそう
- 11. 住み続けられるまちづくりを
- 12. 気候変動に具体的な対策を
- 13. 気候変動に具体的な対策を

▶「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」 <https://www.westjr.co.jp/safety/policy/>

▶「安全」の取り組みの詳細 <https://www.westjr.co.jp/safety>

▶鉄道安全報告書 [https://www.westjr.co.jp/safety/report\\_railroad/](https://www.westjr.co.jp/safety/report_railroad/)

## 安全最優先の意識の浸透

JR西日本グループの一人ひとりが福知山線列車事故を心に刻み、安全にかかわる方針を理解した上で、「リスクを具体的に考える」ことにより、安全に対する感度を高め、直面する状況において「危ないと感じた時」や「安全が確認できない時」

には「迷わず列車を止める」「迷わず作業を止める」といった具体的な考動を積み重ねることにより、安全最優先の風土を築きます。

## 取り組み事例 「におい」体感訓練の実施（福知山支社 福知山電車区）

福知山電車区では、車両異常を早期に発見できる社員の育成を目的として、異常の初期段階から感知することができる「におい」に着目した体感訓練を実施しています。

具体的には歯車箱やコンプレッサーなど部品同士が接触する部分に用いられているオイル、グリスが熱を持った際に発生する「におい」を社員やグループ会社社員に体感させることで、異臭に遭遇した時に適切な判断や対応ができるようにしています。

異臭体感キット  
はんだごて(乾電池式)や  
瓶詰の油脂類



体感訓練を活かし適切な判断、対応に努めています

福知山支社 福知山電車区 車両管理係  
今福 亮太

「におい」の体感訓練を受講し、「車両機器に使用している通常の状態の油脂のにおい」と「異常な熱を持った状態の油脂のにおい」を比較することで、違う「におい」になることを体感することができました。今回の体感訓練で得た知見をもとに、異臭に遭遇した際に適切な判断、対応が取れるように努めていきたいと思えます。



社員の経験値を高める取り組みとなるよう心掛けています

福知山支社 福知山電車区 車両管理係  
(現 福知山支社輸送課) 本田 智也

教育を行うにあたり、社員が異常時に大丈夫だろうという思い込みで陥らないよう、事前に社員の経験値を高める取り組みとなるよう心掛けて訓練を実施しています。

訓練を受講する社員は、普段、オイルやグリス自体のにおいを嗅ぐことはあるものの、それを加熱した「におい」はほとんど嗅いだことがなく、興味を持って取り組むことができました。また、イメージしやすいように、機器の写真とそれに使用している油脂が分かるよう訓練用の資料を作成し、この「におい」が発生した場合はどこに異常があるかということを知りやすく整理しました。

この取り組みは、自箇所の社員にとどまらず、他の乗務員区所やグループ会社の構内運転士にも展開しました。その際、油脂類を個別に瓶詰めにしてすぐに熱することができる異臭体感キットを作製するなどの工夫も行いました。今後は、油脂の種類やゴムなど、種類を増やし継続して取り組みを進めていきたいと思えます。



体感訓練で不具合が発生した際の判断材料を得ることができました

JR西日本メンテック福知山支店 電車営業所 係長 足立 大輔

車両基地構内での列車の運転や運転前の車両点検を担当していることから、福知山電車区の「におい」の体感訓練を受講しました。普段の業務では、車両の「におい」を感じることはありませんが、熱せられた油脂の「におい」を嗅いだことで、車両に異常がある状態を体感できました。

車両の部位ごとに使われている油脂の種類も違うため、いろいろな種類の「熱せられた油脂のにおい」を体感することで、不具合が発生した際の判断材料を得ることができました。

足立係長(左から3人目)



## 安全で安心、信頼していただける鉄道の構築

## 「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」の着実な遂行

## 組織の安全管理(安全マネジメント)の充実

「安全を維持する鉄道システム」の機能を向上させるため、安全マネジメントシステムやリスクアセスメント※1などの「経営層」「技術層」「実行層」の三層による組織全体で安全を確保する仕組みを構築するとともに、時間の経過による劣化を防ぎ、有効に機能させるための継続的な改善を図っています。

具体的には、重大事故・労働災害の未然防止に向けた手段であるリスクアセスメントの質の向上や安全マネジメントレビュー※2などの仕組みの構築などを行い、それらの仕組みに対してPDCAサイクルを回すことにより継続的な改善を図ります。

## 取り組み事例 ISSMデータを使った多客期の発生傾向周知の取り組み(岡山支社 岡山運転区)

岡山運転区では、多客輸送期間(ゴールデンウィーク、お盆期間、年末年始)を迎えるにあたり、ISSM※3のデータを活用し、ヒューマンエラーの防止やリスクを抑え込むために以下の取り組みを行っています。

- ① 過去の5年間の年末年始期間中に発生した事象をISSMより抽出し傾向を分析
- ② 箇所内で、係長をリーダーとしたチームごとに多客期間中に意識して実行する取り組みを設定
- ③ 全運転士にアンケートを行い、油断しがちな線区・列車・駅間・環境とそれに対する注意点を抽出
- ④ 各チームのリーダーで「マイスター会議」を開催し、①～③の内容を検証して、結果を掲示・タブレットにて箇所内に展開



列車や駅間、環境のファクターを組み合わせたヒヤリハットとそれに対する対処のポイントについて議論



マイスター会議後、掲示・タブレットにて箇所内で展開

## 運転士を全力でサポートしていきます

岡山支社 岡山運転区 助役  
小野 智

ISSMデータを活用して多客期に多く発生している事象を分析し、重点的に取り組む項目を抽出しました。また、運転士の声を聴き、油断しがちなところに対する注意点を整理することで、「見える化」を行い、運転士に「気づき」を与え、ヒューマンエラー防止やリスクの抑え込みを図っていただけるように工夫しています。

運転士が「自分ゴト化」できるように意識させることに重きを置いて、今後もヒューマンエラーなどを減らせるように運転士をサポートしていきます。



## 分かりやすい言葉で伝えることを意識しています

岡山支社 岡山運転区 係長  
松井 勤武

多客輸送期間を迎える前に、乗務するエリアの行路別に、具体的なリスク・気がかり事象の洗い出しと対策の検討を「マイスター会議」で実施しています。

会議で議論した内容については、運転士により伝わるように、分かりやすく短い言葉で伝えることを意識して掲示しています。また、列車に添乗し、運転士とともに注意すべき点を再確認しています。多客期ごとに取り組みの良かったところ、改善すべきところをしっかりと振り返り、次の多客輸送期間のさらなる安全性向上につなげられるよう、取り組んでいきたいと思えます。



## 一人ひとりの安全考動の実践

一人ひとりが安全に関する情報を報告・共有し、組織的な安全対策に結びつけるとともに、それらの情報をもとに自己管理などを検討し、実践することに取り組んでいます。

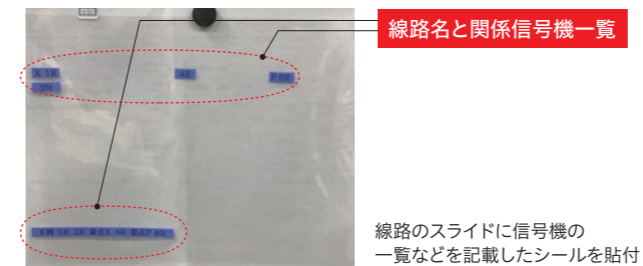
一人ひとりの安全性向上に向けた取り組みを積極的に

推奨・表彰するとともに、各現場などで実践している創意工夫が認められる事例について、業務発表会や社内誌などで水平展開し、安全対策へ積極的に採用しています。

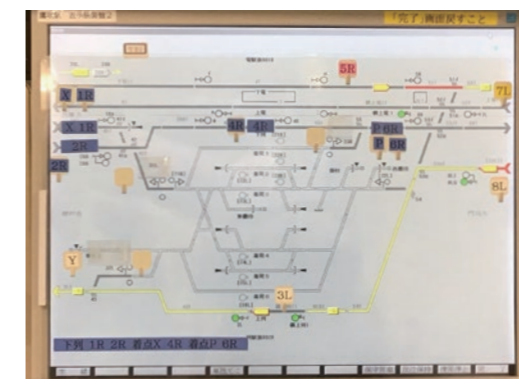
## 取り組み事例 解放工事の誤扱い防止処置(近畿統括本部 神戸支社 神戸駅管区 鷹取駅)

鷹取駅では駅構内の信号をモニター上で電子的に自動制御しており、工事の時に手動制御に切り替えた際、物理的に誤扱い防止処置ができず、工事区間に誤って列車を進入させてしまう可能性がありました。

そこで、モニター上にクリア板を設置するとともに、鷹取駅の線路配置にあわせた4枚の線路別スライドを作成し、その線路にある信号機の一覧などを記載したシールを各スライドに貼りました。



線路のスライドに信号機の一覧などを記載したシールを貼付



PCモニターに設置したクリア板にスライドを重ねて使用



手動制御の場合でも安全に信号を制御

## 試行錯誤し安全意識を高めていきます

近畿統括本部 神戸支社 神戸駅  
運輸管理係  
水谷 真史

本取り組みを実施する前は画面上で信号が出ていないことをバックアップ者と相互確認した後に工事の着手をしていました。そのため、人間の注意力に頼る部分が多く、工事区間に誤って列車を進入させてしまうリスクが考えられました。その中で、他箇所でも工事区間に車両が進入する事象が発生し、自箇所に置き換えた際、鷹取駅でも同種事象を発生させない対策を検討することにしました。

検討にあたっては、試作品を試行錯誤し、実際に運転業務に携わる若手社員の意見を集約し改良を重ね、より安全に取り扱いができる対策とすることができました。

今後、鷹取駅の信号制御装置を更新する際には、本取り組みも改良が必要となることから、再度、問題点を洗い出し、これに終わらずに取り組みを続け、少しでもリスク低減できるように進めていきたいと思えます。また、新任者や転任者に対しても対策の意味をしっかりと継承していきたいです。



※1 リスクアセスメント: リスクを見つけ、評価し、優先して対処すべきリスクに対して適切な対策を講じる一連の手順

※2 安全マネジメントレビュー: 経営層が安全管理体制の構築・改善の状況を振り返り、評価し、必要に応じて見直し・改善を行う仕組み

※3 ISSM(Integrated System for Safety Management) 安全マネジメント統合システム: 「安全に関する情報」および「リスクアセスメント情報」を検索可能なデータベース

## 「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」の着実な遂行

### 安全を維持する鉄道システムの充実

鉄道の安全な状態を維持するため、ハード対策を軸としつつ、ソフト対策によりその効果の最大化を図る、もしくはハード対策で及ばない範囲を補完するなど、ハード・ソフトの組み合わせからなる「安全を維持する鉄道システム」の機能向上に

取り組んでいます。

ソフト対策についても、一人ひとりがルールの趣旨や根拠を理解し、主体的にルールを遵守することにより、重大事故・労働災害の未然防止が実施できるように、取り組んでいます。

#### 取り組み事例 「安全の誓い」を活用した事故を学ぶ取り組み（岡山支社 岡山電気区）

岡山電気区では、毎月実施している安全会議などで、他箇所が発生した過去の事故を学習し、現在の取り扱いやルールの根拠などを学んでいます。

過去の事故を学んだ社員が「感じたこと、気づいたこと、疑問に思ったこと、さらに知りたいこと」などを研修ノート「安全の誓い」に記入し、任意で区長に提出しています。区長は社員が記入した内容に対して、自らコメントを記載し回答するとともに、対話を通じて気づきを提供することで、一人ひとりの疑問点を解消しています。



「安全の誓い」で具体的な考動の振り返りとサポートを行う川端区長(左)と込山社員(右)

#### 振り返りを共有することで安全意識を高めています

岡山支社 岡山電気区 電気管理係  
込山 直晃

毎月実施している安全会議において、自分が「思ったこと・感じたこと・気づいたこと」を「安全の誓い」に記載し、区長に提出することで、区長とコミュニケーションを取るきっかけになり、安全について話す機会も増えました。

また、区長からのフィードバックが、モチベーションの向上につながり、継続して「安全の誓い」を提出するようになりました。

毎月、安全会議などで学んだ事象について、同種事象を防ぐための目標を立て、翌月には、目標に対して「もう少しこうしてみたら良かったのではないかと」感じたことを区長と振り返り、共有しています。この取り組みをしっかりと行い、安全意識のさらなる向上につなげていきたいと思っています。

#### 対話を通じて気づきを得てもらえるよう

働きかけています  
岡山支社 岡山電気区 区長  
川端 良昌

現在、岡山電気区では、安全会議などにおいて他箇所や他会社で発生した事象の振り返りを行っていますが、会議中に気づいたことや、疑問に思ったことなどを「安全の誓い」に書き留め、具体的な考動に落とし込むようにしています。

また、会議後、「安全の誓い」を私と共有する場を設け、書き留めた疑問を解消するだけでなく、上司・部下のコミュニケーションも図りながら、社員からの意見集約を行っています。

自らコメントを記載し回答するとともに、対話を通じて気づきの提供を行うことで、一人ひとりの疑問を解消し、具体的な考動につなげるきっかけの場としています。